

平成29年度 被爆地派遣事業報告書

派遣日 8月4日（金）～6日（日）

派遣地 広島県広島市



高社中学校

平和記念式典から

高社中学校3年 山岸 成

僕は、一度広島を訪れたことがあった。当時は幼かった僕だが、悲惨であったと思ったことは、脳裏に強く焼き付いている。そんな中、今回このような貴重な機会をいただいた。学校での学習で戦争についての知識も増え、成長した僕が感じたことは、日本国民の一人として核兵器をなくさなくてはならないという使命感だ。

1945年8月6日。この日付を見て大半の人は、広島に原爆が投下された日だとわかるだろう。そして、それから72年。2017年8月6日、広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式に僕たち高社中学校代表4名が出席させていただいた。気温36度と、とても暑い中行われた。しかし、当然ながら原爆の熱さは、比ではない。たくさんの犠牲者を出し、今なお犠牲者は、増え続けている。こんなにも被害をもたらした大量殺戮兵器、原子力爆弾。その恐ろしさを学び伝えていくことが僕たちの仕事である。

原爆の投下の原因となった戦争。僕たちは、戦争の恐ろしさを知らない。しかしこの瞬間にも世界のどこかで戦争や紛争が起きていて、たくさんの人が苦しみ命を落としている。戦争は、お互いを傷つける。戦争からは何も生まれない。問題も解決しない。広島に原爆が落とされたことをはじめ、今も世界のどこかで戦争や紛争が起きていることを考えると、同じ人間として戦争や平和について真剣に考えていかなくてはならないと思う。



二度とこのようなことが起こらないよう、知識を深めることが今は一番だと思う。原爆や戦争の悲惨さを学び、そのことを広く伝えていく。これが、次世代を担う私たちのできる最大限の努めだ。

人間は、誰もが同じことができるとは限らない。それでも、世界中の人々が安心して生活できる平和な世界を作っていくには限らない。私たち一人一人が自分にできる精一杯の力を考え、実践していくことが、平和への礎になるのではないだろうか。このこ



とに、被爆した地広島を訪れ、そして平和記念式典に出席したことで気づくことができた。そして、気づくことができたことが嬉しかった。このような機会をいただいたことにも感謝したい。

最後に、慰霊碑の前で献花をさせていただいた。そこで僕は、心から慰霊し、これからの世界恒久平和に近づけるよう力を尽くすことを誓った。だからこそ、さらに知識を深めていきたい。

被爆地広島を訪れて

高社中学校3年 武田 隆斗

僕たちは、8月4, 5, 6日に被爆地派遣事業で、広島に行きました。そして、平和について深く考えてきました。平和記念公園内をガイドしてもらったり、平和記念式典に参加したりして、現在の平和さと過去の戦争による悲惨さを、しっかりと感じとれる3日間となりました。

核兵器の現状

中・高生ピースクラブが開催する事業に参加しました。その事業では、今の世界の核兵器の現状や昔の広島の事などについて、地元の中高生が丁寧に教えてくれました。今でも世界には多くの核兵器がある現状を知って、恐怖を感じるとともに、平和への思いがさらに増しました。



平和交流会



翠町中学校と平和交流会もしました。平和交流会では、お互いの学校の紹介や、日頃から取り組んでいる平和学習について、発表しあいました。翠町中学校では、戦争の悲惨さを忘れないため、平和について考えるために毎年全校で、校内慰霊祭を行っているそうです。

連帯旗の交換も行い、お互いの親交を深めることができましたと思います。

この3日間の様々な体験を通して、平和についてたくさんのことを学び、考えることができました。今回の経験を生かして、これから社会に出たときに、より良い社会にしていけるようしっかり貢献していきたいです。

「広島で学んだこと」

高社中学校3年 小松奈々

私は8月4日～6日にかけて広島に行き戦争について学んできました。2日目に平和記念公園や平和記念資料館に行きました。記念公園には「原爆の子の像」がありました。この像は禎子さんの死をきっかけに建てられた像で、禎子さんをはじめ原爆で亡くなった多くの子どもたちを慰霊し、平和を願ってつくられました。まわりには数え切れないほど多くの折り鶴が奉納されていて、私達も全校生徒でつくった千羽鶴を奉納してきました。その後、レストハウスに行きました。この建物は爆心地から170mの近さで被爆し、地下を除いて全焼しました。原爆が落ちたときに、偶然地下に降りていた従業員だけが助かったという所で、私達はこの場所に行き、当時のままの形で残され崩れ落ちた壁や天井を見ました。この中で生き残った方は、その後どんな惨劇を見て、何を思い、必死に生き延び、生涯を過ごされたかと思うと、たまらない気持ちになりました。最後に、広島原爆死没者追悼平和祈念館に行きました。ここには、追悼空間スロープといい、原爆の時へ時間をさかのぼるという意味を込めて、時計の針と反対回りに作られたスロープの先に爆心地から見た被爆後の灰と化した街の様子が360度壁面に描かれています。また、原爆が落とされた8時15分を表す Monument や、ただでさえ暑い夏に全身火傷を負い、水を求めて亡くなられた方々をとむらうための水がいたる所に流れていました。



平和記念資料館では、原爆の被害の様子や、核兵器について展示されていました。私が、特に衝撃を受けたのは原爆が落とされた時の様子を映像で再現した物です。原爆が落ちた後激しい熱線と、爆風と共に町が消え、元々の街の様子は跡形も残っていませんでした。



原爆について、お話を聞く機会はあるけれども、映像で見たのは初めてで、目を背けなくなる場面がいくつもあり、原爆の恐ろしさを痛感しました。この原爆によって約35万人の方が亡くなったそうです。生き残った方の中でも強い放射線の影響で亡くなってしまった方や、後障害を患った方も多くいます。写真では、ケロイドになった女性を見ました。ケロイドとは、火傷が治ったあとが盛り上がる症状です。原爆はその当時だけでなく、その後も多くの方を長く苦しめてきたのだと思いました。私は3日間を通して、戦争とはとても言葉では言い表せないくらい悲しく悲惨なものだと思いました。このような被害を日本だけでなく地球上で起こさないためにも、このような場所を残し、広島で学んだ事を後世に伝えていくことが私たちの役目だと思います。平和に繋がるために、私が今出来ることを考えていきたいです。

広島レポート

高社中学校3年 山崎智夏

私達は、8月4日～6日に広島を訪れました。70数年間の時を経て、広島は豊かな都市へと変化を遂げていました。

翠町中学校の皆さんとの平和交流会

私達が交流した翠町中学校は、全7クラスという、全校人数が多く部活動が盛んな学校でした。翠町中学校は昔、第三国民学校と呼ばれていて、昭和14年から存在するとても長い伝統がある学校だということが分かりました。爆心地から約3km離れた翠町中学校（当時の第三国民学校）では、多くの教職員や生徒が犠牲になったそうです。敷地内には原爆慰霊碑があり、毎年校内慰霊祭が行われていて、今年で45回目を迎えたそうです。その他にも、昼食時に平和の歌を放送する「平和の歌週間」や平和記念公園でのフィールドワークなど、熱心に平和学習を行っていました。交流会では、その他に連帯旗の交換や「青い空は」の合唱、慰霊碑への献花を行いました。短い時間でしたが、たくさんのことを学ぶことができました。



中・高生ピースクラブ開催「8月5日事業」

中・高生ピースクラブとは、広島市と広島平和文化センターが平和の推進に取り組む人材育成のために設けている事業です。日頃から被爆のことについて学び、他の自治体の中・高校生との平和学習会などを通じて平和の大切さを発信しています。ピースクラブは、『被爆の実相を学び、ヒロシマの心を伝える』を目標としているそうです。



実際にこの日は、自分たちと同世代の中学生や高校生がいろいろな事を教えてくれながら平和記念公園内を案内してくださいました。平和の鐘の事や、レストハウスの事、公園のいたる所に水がある理由や、ドームと慰霊碑と資料館が一直線上に並んでいる理由など、本当にたくさんを教えてください、とても良い勉強となりました。千羽鶴がいっぱいになって納める場所がないというような事はないのですか。とお聞きしたところ、古くなった鶴は、折って下さった方の思いを無駄にしないように紙を再利用して、はがきにしたりして配っていると教えて下さいました。このように、今までに来て下さった方への気持ちも、これから来る方への気持ちも両方考慮されていて、素晴らしい気遣いだなと感じました。